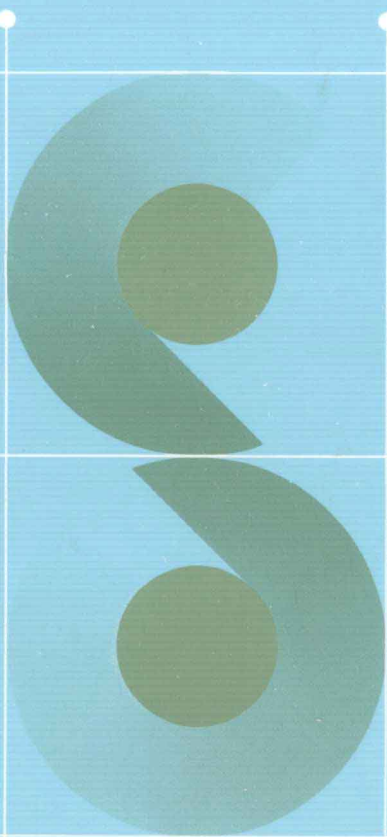


性の臨床

患者の性的問題の理解とケアのために

河野友信



医学書院

性の臨床

患者の性的問題の理解とケアのために

河野友信 聖路加国際病院心療内科

医学書院

性の臨床

患者の性的問題の理解とケアのために

1989年4月15日発行 第1版第1刷©

1995年12月15日発行 第1版第3刷

著者 かわの ともふ
河野友信

発行者 株式会社 医学書院

代表取締役 金原 優

〒113-91 東京都文京区本郷5-24 3

電話 03-3817-5600 (社内案内)

印刷 三報社印刷

製本 信和製本

用紙 中越パルプ

本書の内容を無断で複写・複製・転載すると、著作権・出版権の侵害となることがありますので御注意下さい。

ISBN4-260-13584-8 Y1900

R <日本複写権センター委託出版物・特別扱い>

本書の無断複写は著作権法上での例外を除き、禁じられています。
本書は日本複写権センターへの特別委託出版物です。複写される場合は、そのつと事前に日本複写権センター（電話 03-3401-2382）の許諾を得てください。

セックス・ヒストリーの取り方

I 性に関すること	
A. 精通・初潮	① 年齢 ② その時の気持 ③ 夢精あるいは射精 ④ 生理障害
B. マスターベーション	① 始めた年齢 ② きっかけ ③ その時の気持 ④ 現在(頻度, 勃起, 射精, 快感, 気持, その他)
C. 性に関する知識	① 情報源
D. 性に関する関心	① 時期
E. 性体験	① 初体験(自分の年齢, 相手の年齢, 相手, 状況) ② その他
F. 異性の好み	
II 生育歴	
A. 家族構成	① 自分の育った家族 ② 相手の家族 ③ 現在の家族
B. 生育歴で特記すること	
C. 家庭の性に対する雰囲気	
D. 父の性格	
E. 母の性格	
F. 本人の性格	
G. 父母の結婚をどう思うか	
H. 宗教	① 家庭 ② 本人
III 人間関係	
A. 恋愛に関して	① 経験(有無) ② 回数(人) ③ 相手 ④ 性交渉(有, 無)
失恋	① 経験(有無) ② 回数(人) ③ 相手 ④ 原因
B. 同棲・離婚・別居に関して	① 年月日 ② 相手の性格 ③ 気に入った面 ④ 気に入らない面 ⑤ 原因 ⑥ 今後の方針
C. 現在の相手にに関して	① 相手 ② 交際期間 ③ 結婚(見合, 恋愛) ④ 性的交渉(初回, 現在の状況) ⑤ 気に入っている面 ⑥ 気に入ってない面
その他	
A. 治療協力者	
B. 一番困っていること	
C. 既往歴	
D. その他	

(日本赤十字医療センターのチャートより)

目 次

はじめに	1
性問題を有する人の頻度	3
臨床でみる性問題	4
性問題の発生した背景	6
臨床の中にみられる性障害や性問題の表現	7
臨床における性問題の特徴と対応上の問題点	8
第1章 臨床の場で必要な性の知識	9
1. 人間の性	9
氾濫する情報としての‘性知識’	9
性についての誤解に根ざす性問題——症例から	11
臨床の場で必要な基本的な性の知識	14
2. 性と心理	20
男らしさ・女らしさ	21
フロイドの精神性発達説	23
性の心身相関	25
3. 性の異常と正常	26
性の悩みと性行動の諸相——	
この事例は正常なのか異常なのか	28
性愛の異常と正常	30
4. ライフサイクルと性	35
ライフサイクルと性	35
性とライフサイクル——臨床から	39

5. 治療関係と性	44
治療関係における性の諸相	45
治療関係と性	48
治療関係の中の性の問題とその対策	51
6. 性の臨床と看護	53
臨床看護と性のかかわり	53
看護に際しての性への対応のあり方	56
第2章 疾患と性	57
1. 身体疾患と性	57
性問題をもつ身体疾患の症例から	59
身体疾患と性	61
2. 精神疾患と性	66
うつ病と性	67
躁病と性	70
精神分裂病と性	71
てんかんと性	71
神経症と性	72
老人の精神障害と性	73
精神薄弱と性	73
性格傾向と性	74
心身症と性	75
3. 性障害の診断と治療——	
心因性性機能障害を中心に	76
性機能障害の事例から	78
4. 医原性の性障害	82
医原性性障害の事例から	83
医原性の性障害	87
医原性性障害の予防と対策	91
5. 性の臨床の実際	92
性問題の初診時のチェックポイント	92
性障害の診断と治療	97
第3章 ‘性の臨床’ Q&A	103
① 性の臨床での医療者の心構えを教えてください	103
② 性の問題と関わる医療者の態度はどうあるべきなのでしょう	104

- ③ 問診での、性の問題の切り出し方はどうしていますか
.....

④ 問診で性の問題を聴きとるにはどうしたらよいのでしょうか
う

⑤ 性的な問題がある場合、身体症状としては泌尿器系に現れやすいのですか

⑥ 入院中の患者の性の問題にはどう対応したらよいのでしょうか

⑦ ある疾患に性の問題が隠される場合の例にはどんなものがありますか

⑧ 性の知識のないケースにどう対応すればよいですか
.....

⑨ 医療の場における性の問題はどんなふうに見えていますか

⑩ 医原性の性の問題にはどんな例がありますか

⑪ 身体医学的な治療（薬剤投与・手術など）が性の問題を引き起こすことがありますか

⑫ 性の精神的側面の見方を教えてください

⑬ 女性の「更年期障害」には、性の問題が関与することがありますか

⑭ 夫からSTD（性行為感染症）の感染を受けた妻には、どのように説明していくのがよいのでしょうか

⑮ 射精障害を訴えるケースを専門機関に紹介する場合、どの機関に紹介するか、教えてください

⑯ 精液に色が着いている・血液が混じっている等の訴えがあります。他に自覚症状がない場合、心配いらないのでしょうか

⑰ 医療機関を渡り歩いた難治性の不感症にぶつかることがあります。夫の協力も一応は得られますが、解決に時間がかかり本人が投げ出したいくなっているようなとき、次の段階へうまくもっていくにはどうしたらいいのでしょうか

⑱ わいせつ行為への欲求・小児愛などを訴える電話相談が

105

107

110

111

113

115

116

118

120

120

122

123

123

124

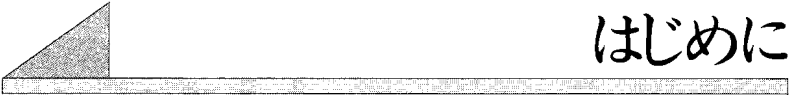
124

	あります。面接を拒否し電話だけですが本人は罪悪感に 悩み真剣にやめたいと思っていることが事実の場合、ど んなふうに援助したらいいのでしょうか ……………	125
19	初交のつまづきや性被害から結婚恐怖、性交恐怖やコン プレックスをもつようになった場合、女性は心療内科な ど、他の医療機関に行きたがりません。婦人科の日常診 療の中で看護者の対応を教えてください ……………	125
20	性の被害者への援助はどうすればよいのでしょうか ……………	127
21	妊娠中絶の対応での注意点をあげてください ……………	130
22	思春期における性の問題にはどんなものがありますか。 その症状が、一般内科的な症状として現れることがあり ますか ……………	130
23	老人の性の問題は、臨床の現場ではどのように現れます か ……………	132
24	性の問題・訴えについてのカンファレンスのもち方はど うしたらよいのでしょうか ……………	132

第4章 性の心理・社会的事項 ……………137

1. 性と犯罪 ……………	137
強姦 (rape) 138	
2. 性教育 ……………	139
性教育とは 141	
性教育を必要とする背景要因 142	
性教育の課題と役割 143	
生涯教育としての性教育 144	
性教育はだれが行うのか 145	
医療従事者の性教育 146	
3. 障害者と性 ……………	148
障害者とは 148	
障害者と性——事例から 149	
障害者の性 150	
4. 思春期の性 ……………	157
思春期の性心理 158	

思春期の性と疾病	160
母子相姦	162
思春期の性の問題と対策	164
5. 老人の性	164
老人の性生理	165
老人の性意識と性の実態	168
老人の性と臨床	171
老人の性の今後のあり方について	174
6. 同性愛	175
同性愛とは	176
同性愛の性愛行動	177
同性愛の原因	178
同性愛者の特徴	179
同性愛の臨床	181
7. 性病（性行為感染症）	183
性病とは	185
事例から	190
性伝染疾患へのアプローチ	191
8. AIDS と AIDS をめぐる諸問題	193
AIDS とは	193
AIDS と臨床上の諸問題	195
付録 1. 性の臨床に関係のある薬剤	199
付録 2. 性に関する相談機関	202
付録 3. 改訂 CDC エイズ診断基準	206
あとがき	207
索引	209



はじめに

臨床における医療行為の目標は、いうまでもなく患者のニーズに応えることにあります。従来、ともすれば疾病中心 (disease oriented) で診断主義に偏重しがちだった医療のあり方への反省から、近年、病気をもった患者中心 (patient oriented) の医療が主張されてきております。

そこでは問題志向的 (problem oriented) であることが強調され、患者の問題は単に身体的な症状や所見に限定せず、心理的・社会的な側面から検討し、総合的に対応すること (total care) が要求されるのです。

‘性’の問題は、泌尿器科や産婦人科などのように性器官を対象とする診療科に限らず、患者中心の医療を展開しようとすれば、各科の臨床の中に数多く潜んでおり、それは臨床上、極めて重要な問題です。

性欲は、食欲などと同じで本能的な欲求の1つであり、生理現象です。臨床にみられる性の問題は、性そのものの障害のほかに、性が不当に抑圧されて患者の悩みになっているものや、性の発達に関するもの、心身症や神経症の病態を形成するのに性に関与しているものなど、複雑多岐にわたっています。

性問題は、各科の日常臨床で重要でありながら、ほとんど対応されずに放置されているのが現状でしょう。これは、性をタブー視し、恥ずかしい、秘めたものとする日本文化の影響と、臨床医学教育の欠陥に由

来するものと思います。

性研究の歴史は、本邦に限らず欧米でも、ごく近年まで弾圧された暗い影をもっていますが、性の解放が世の風潮となり、そのゆきすぎが社会的な問題になっている現在であっても、臨床の窓から性問題をみると、性が人間の生活の中で市民権をもっていないことに気づきます。

患者も周囲も、性問題については無視するか抑圧するために、性問題は潜在して表面には出てこないことが、臨床上の特徴であり、問題でもあります。

また、日本の医学教育や看護教育、さらには臨床医学の中に、性医学 (sexual medicine) や性科学 (sexology) が導入されていないことにも、医療側が性の臨床をないがしろにしてきた原因があると思われます。ほとんどの医療従事者は、性科学の知識と性治療の技術を欠いているのが、日本の医療界の実状です。

このような現状に対する反省から、本邦でも性教育、性問題の研究、性障害の研修と臨床体制などについて関心がもたれ、“Sexual Medicine” (1974 年創刊)、“性と避妊” (1976 年創刊) などの雑誌が発刊されるようになり、Impotence 研究会、日本セックスカウンセラー・セラピスト協会、日本性科学会なども発足してきています。しかし、前記 2 誌は既に廃刊になり‘性の臨床’の現状がいまだに低調であることを意味しています。

‘性の臨床’という本書の標題は筆者が創作した用語ですが、性が臨床医学の中で市民権を得て、病者が性の悩みから少しでも解放されてほしいという願いを込めています。

性は本来、人間の基本的な欲求の 1 つであり、性障害に悩む人には援助の手を伸べるべきですし、病む人であっても可能な範囲で、大らかに性の欲求を満たす権利を有すると思うのです。患者のニーズに応えるためには、患者はもとより患者の生きている社会や環境などの背景をよく知る必要があります。

本書は、医師、看護婦をはじめとする医療従事者のみなさんへ向けた、
‘性の臨床’のガイドブックですが、実際の診療の現場で役立つノウハウ
を盛り込んで、問題解決型の本を目指したつもりです。

本書では、できるだけ症例を通して具体的に、臨床で対処すべき性問
題について述べていきたいと思います。

性問題を有する人の頻度

泌尿器科や産婦人科など、性器官を診療対象としている診療科では、
インポテンス、不感症、性交痛などの性に関する主訴で受診する患者は
いても、一部の精神科や心療内科などを除くと、直接、性に関する愁訴
で上記以外の科を受診する患者はごく少ないと考えられます。

そうかといって、内科領域・外科領域に限らず、臨床各科の患者の性
に関する悩みは少なくないのです。

性の問題には心理的な要素が多いので、臨床各科の連絡係的な役割を
担う心身症科（心療内科）では、多彩な性の悩みをもつ患者さんに出会
います。

性の臨床メモ

都立駒込病院心身医療科では、1987年1月から12月ま
での1年間で診察した患者315人のうち、うつ病圏（各種
のうつ病）123名を除く192人の25%、48人に多様な性問
題がみられた。うつ病患者を除いたのは、うつ病では性欲
の低下が症状のひとつとしてみられるので性に関する愁訴
があつて当然だからである。性問題を有した48名のうち、
性に関する愁訴で来科したのは9名（18.8%）で、あとは
診療を進めていくうちに性に関する問題がクローズアップ
されてきた。

そこで、まず都立駒込病院心身医療科での診療を通して見た、臨床における性問題の諸相について述べたいと思います。

性問題を有する患者がどのくらいの頻度でいるのか、この点については臨床各科で差があるし、医療施設や地域による差もあり、一律に比較することはできません。これは頻度だけでなく、性問題の内容についてもいえることです。

ただいえることは、どの科であっても、どこの施設であっても、患者と治療者とのコミュニケーションがよく、信頼関係が深いほど、性問題を訴える人の頻度は多くなるということです。病人中心の医療が志向されているところでは、対応を要する性問題も多いということです。

臨床でみる性問題

臨床場面で接する患者には、あらゆる種類の性に関する問題が起こりうるわけですが、駒込病院心身医療科で扱った事例の種類を列記すると、表1のようになります。このように、性に関する多様多彩な問題を扱ったことになります。

表 1 性に関する問題が起こった事例の種類（都立駒込病院心身医療科）

1. 性欲求不満	12. 性交痛	22. 精神薄弱者の性問題
2. インポテンス	13. 婚外妊娠	23. 患者と医療従事者との性関係
3. 不感症	14. 近親相姦	24. 小児のオナニー
4. 早漏	15. 同性愛	25. 老人の性問題
5. 性欲異常亢進	16. サディスト	26. 性病
6. 自慰ノイローゼ	17. 夫と養女の性関係	27. 避妊の相談
7. 性に関する妄想	18. 妻妾同居	28. 性交渉の様式に関する相談
8. 性病恐怖	19. うつ病と性問題	
9. 処女喪失恐怖	20. 慢性疾患と性問題	
10. 性交拒否	21. 手術と性問題	
11. 性交恐怖		

性に関する問題には、患者自身に関するものや、病気になったために2次的に派生した問題で悩んでいるものがあり、小児と老人の事例では、母親なり家族が相談に来ることが多くなります。

表1は外来で対応した事例ですが、入院ではさらに別な問題が加わると思います。たとえば、入院患者同士の性関係、入院患者の性欲求不満からくるいらだち、入院患者の自慰行為など、病棟管理上ないし看護上の問題になった事例を聞いたことがあります。

以上のように多岐にわたる性の問題をまとめると、表2のようになります。この表にまとめた項目の1つ1つがそれぞれのテーマになるような大きな問題ですが、都立駒込病院心身医療科での統計からみると、性の欲求に関する問題が最も多く、性問題を有する人の46%がそうでした。

医療や看護の面で今後重要になってくるのは、ライフサイクルに応じた性問題への対応、身体疾患と性の問題、特に注意を要し細かい配慮が必要なのは、医原性の性障害です。前2者は、たとえ病気があっても人間的な生活を送るという点で、後者は医術の進歩に伴い新たに発生する可能性があり、手術の方法や薬のさじ加減で医原性性障害は避けることができる点で、医療側の病者に対する温かい気づかいが要請される事項です。

表2 性問題の形態

-
- | |
|----------------------|
| 1. 性の欲求に関するもの |
| 2. 性の感覚に関するもの |
| 3. 性の発達と適応に関するもの |
| ライフサイクルでの性問題 |
| (幼児・思春期・結婚生活・更年期・老人) |
| 4. 性の形態の歪み・異常性欲 |
| 5. 性の外傷体験と性への異常心理反応 |
| 6. 精神病者の症状としての性問題 |
| 7. 身体疾患と性 |
| 8. 治療者・患者関係における性 |
| 9. 医原性性障害 |
-

性問題の発生した背景

自験例では、病気の発生や病態形成のうえで性問題が1次的に関与していると思われるものが約6割にみられ、病気になったために2次的に問題の生じたものが約4割でしたが、性問題の発生した背景を探ると、表3に示すような様々な要因がみられます。この表は自験例の背景を分析したのですが、社会風潮を反映したものや患者自身には全く責任のないことからくる不幸なもの、住居問題や長期出張、結婚したくてもできないなど、解決困難な医学の領域以外の要因が少なくありません。

表 3 性問題の発生した背景

-
1. 性の解放
 2. 性についての外傷体験（初交外傷，原光景）など
 3. 性の知識不足と誤解
 4. ストレス
 5. 住居問題
 6. 空閑：長期出張，別居
 7. 配偶者の死
 8. 医療行為：薬の副作用，手術など
 9. 浮気
 10. 配偶者の疾病：精神病，インポテンス
 11. 両親の性の葛藤の反映
 12. 異常性愛，近親相姦
 13. 治療者の問題
 14. 老化と不適応
 15. 養育上の問題：異常な性意識の固定
 16. 身体疾患（糖尿病，脊損，手術，包茎など）
 17. 精神疾患（うつ病など）
 18. 性の対象がいらない（ハイミス，配偶者の死など）
 19. 治療者・患者間のコミュニケーション不足
 20. AIDS の出現
-

この中で、あまりにも初歩的なことで意外なのは、性に関する知識の不足や誤解に基づくものが多いことです。治療者側が正しい知識を与えてあげるだけで、臨床で遭遇する性に関する悩みの多くは解決するということです。

医療行為に基づくもので避けられるものを避けることは、治療者側の責務です。薬にしろ手術にしろ患者のほうは、それに由来すると思ってもみない場合が多いし、たとえ性に関する症状を感じても訴えないことが少なくないので、注意が必要です。

身体疾患で性に関する相談の多いのは、高血圧や脳卒中後の患者、狭心症や心筋梗塞などの患者です。特に患者が若い場合は訴えがなくても、この点について説明してあげることが望ましいと思います。

医療側として困るのは、患者が病気のために一時期なり長期間なり、性生活が不能になった場合で、配偶者が若く、特に男性であると面倒なトラブルが生じやすいことです。

臨床の中にみられる性障害や性問題の表現

臨床場面で、性の問題はどのような形で表現されるのでしょうか。また、それは病気のうえでどのような意味をもつのでしょうか。

性に関する症状や悩みが、ストレートにそのまま表現されるケースは、むしろ少ないと思います。泌尿器科や産婦人科以外の科では、特にそうだと思います。

表4は、自験例についてまとめたものです。ストレートに性についての症状として表現されるものは、把握もしやすいし対策も立てやすいのですが、性に関する問題が病気の中に取り込まれて別の表現をとったりすると、簡単には取り扱えません。特に病態形成のうえで性が大きな意味をもつケースでは、その意味を詳しく探り対応しなければなりません。表4の項目別の詳細な説明は、第1章以降でしていきます。

表 4 臨床の中での性障害・性問題の表現

-
1. 防衛機制（転換反応，否認，逃避など）
 2. 転移感情
 3. 夫婦間のトラブル（離婚，別居など）
 4. 患者の心理状態の異常（神経症など）
 5. 性交拒否
 6. 性についての症状
（妄想，性の不満，インポテンス，自慰など）
 7. 性の発達と老化への不適応
-

臨床における性問題の特徴と対応上の問題点

性の臨床のあり方と問題点を考えてみますと、

- 1) 性の問題は、心身の症状の仮面をかぶっていたり、訴えられずに潜在化していることが多い。
- 2) 性問題は個別的で事例性があるので、単一な機械的な対応ができない。
- 3) 倫理観や価値観で対応が異なる。
- 4) 守秘上の問題でカルテの記載が難しいし、診療の場所も考慮しなければならない。
- 5) 解決不能な社会的問題のあるケースでは、対応に限界がある。
- 6) 治療側（ナースを含めて）に一定の年齢と経験がないと、性問題は扱いにくい。

以上のような問題がありますが、何より問題なのは、性の臨床に必ずる医学教育・看護教育と医療体制がないことです。